

令和３年度 第２回徳島県G I G Aスクール構想推進本部

次 第

日時 令和３年１２月２４日（金）

午前１０時から午前１１時３０分まで

方法 Web会議

（主会場）徳島県庁 ９階 教育委員室
徳島市万代町１丁目１番地

（第２会場）徳島県立総合教育センター
４階 プレゼンテーション室
板野郡板野町犬伏東谷１－７

１ 開会

２ 開会挨拶

３ 協議

（１）各部会からの報告

（２）その他

４ 閉会挨拶

５ 閉会

< 配布物一覧 >

- ・次第，出席者名簿
- ・部会協議の実施概要
- ・【報告１】小学校部会
- ・【報告２】中学校部会
- ・【報告３】高等学校学校部会
- ・【報告４】特別支援学校学校部会
- ・【報告５】不登校児童生徒学びの支援検討部会
- ・【資料１】ＩＣＴスキル習得体系表
- ・【資料２】重点目標に沿った事例（小学校）
- ・【資料３】重点目標に沿った事例（中学校）
- ・【資料４】重点目標に沿った事例（高等学校）
- ・【資料５】不登校児童生徒への支援の取組状況調査

令和３年度 第２回徳島県ＧＩＧＡスクール構想推進本部 出席者名簿

(敬称略)

所属及び役職	氏 名	備 考
徳島県教育委員会 教育長	榊 浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	
徳島県教育委員会 副教育長	臼杵 一浩	
徳島県小学校長会 会長	安田 哲也	
徳島県中学校長会 会長 美馬市立脇町中学校 校長	(杉本 恭介) 横畠 道彦	(欠席) 代理出席
徳島県高等学校長協会 会長	儀宝 修	
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	上野 清文	
徳島県教育委員会 教育次長(県立学校担当)	藤本 和史	
徳島県教育委員会 教育次長(小中学校担当)	藤田 完	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 課長	向井 佳子	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	森下 稲子	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	藤井 宏孝	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	
徳島県立総合教育センター ＧＩＧＡスクール推進課 課長	濱口 和弥	

事務局

徳島県立総合教育センター ＧＩＧＡスクール推進課	班長 黒田 收 班長 橋本 史 班長 平田 朗 義明
--------------------------	-------------------------------------

部会協議の実施概要

1 進捗状況（各発達段階ごとの状況）

（１）小中高等学校部会

ア 取組内容

- ・学校計画訪問での指導・助言
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援
- ・GIGAスクールサポートサイトでの情報発信

イ 重点目標達成に向けた現在の状況

小学校

タブレットを日常的に活用した学びの推進

	児童	教職員
１・２年	・全項目について進捗状況は良好である。	・最も基本的な使い方から丁寧な指導が展開されている。
３・４年	・全項目について進捗状況は良好である。	・この段階で重要となるタイピングの指導に重点的に取り組んでいる。
５・６年	・概ね良好であるが、個人差が生じつつある。	・情報モラルの指導に熱心に取り組んでいる。 ・着実な定着に向けて研究を進めている。

中学校

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善
～「どんどん」「みんなで」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

生徒	教職員
・基本的な使い方は概ね習得できている。 ・問題解決・探究における情報活用面で向上が望まれる。	・活用推進に向けた機運が高まりつつある。 ・各教科等での活用方法について、試行錯誤を重ねている。

高等学校

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

生徒	教職員
・全体的に一定のスキルを習得している。 ・生徒間の差が開きつつある。	・課題研究等での活用が進んでいる。 ・幅広いスキルレベルの生徒への対応に工夫が必要である。

ウ 持ち帰りの状況について

生徒	教職員
・持ち帰りが進んでいない。また、活用頻度が低い場合は、利用する時間が短く、「慣れる」という部分が不足している。	・破損や学習目的以外の不適切な利用への警戒感が強く、授業での活用・持ち帰りを推進できていない。

(2) 特別支援学校部会 (進行中)

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I (いつも) C (ちょっと) T (たのしい)」活用を～

ア 校内ミニ研修を実施

各校で校内でのアプリをはじめとした活用方法について研究

イ 各校の1人1台端末等を用いた特色ある実践

ウ 計画訪問，サポート事業での個別の支援

(3) 不登校児童生徒の学びの支援検討部会 (進行中)

ア モデル校での聴き取り調査

イ 全校対象調査による事例収集

ウ 活用事例集作成に向けた準備

(4) 総務部会 (進行中)

2 課題克服に向けた取組

[年度当初からの取組]

学校計画訪問で、教科等でのICTを効果的に活用した授業改善・学力向上に向けた指導・助言を行う。

GIGAスクール構想サポート事業で、各教科指導を充実させるためのアプリ操作等についての校内研修支援を行う。

GIGAスクールサポータの配置により、県立学校での1人1台端末の運用を支援する。

ヘルプデスクにより、電話での各学校の課題に応じた個別対応を行う。

[第1回推進本部会以降の取組]

徳島県GIGAスクール実践動画コンテストにより、動画による好事例を収集し共有する。

学校ホームページでのGIGAスクール構想についての積極的な情報発信により、家庭に向けたGIGAスクールについての啓発と児童生徒のICT活用に向けた意欲の向上を図る。

徳島県GIGAスクールサポートサイトでの情報提供を行う。

不登校児童生徒へのＩＣＴを活用した「心のサポート的な支援」や「学びの支援」について，各学校の取組状況を調査する。

特別支援学校「校内ミニ研修」実施・報告書収集と小中高等学校へ「校内研修事例」の作成依頼により，校内組織の充実と教職員スキルアップのための好事例の共有を図る。

3 全体的に見えてきた課題

校内でのＧＩＧＡスクール構想の組織的な推進 各教科等での効果的な活用事例の横展開 児童生徒への情報モラル教育のより一層の推進 持ち帰りのより一層の推進
--

4 今後の取組（年度末に向けた取組）

- 1 月
 - ・担当者会等（小中高特）の開催による周知
 - ・特別支援学校「校内ミニ研修」，小中高等学校へ「校内研修事例」の事例収集による好事例の共有，校内組織の充実
 - ・ＧＩＧＡスクールサポートサイトでの情報発信による各教科等での活用の充実，持ち帰りの推進
 - ・マスコミへの積極的情報提供によるＧＩＧＡスクールに関する広報，家庭への啓発の推進
 - ・ＧＩＧＡスクールサポート事業の内容充実による活用推進
 - ・徳島県ＰＴＡ連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県ＧＩＧＡスクール構想の趣旨や概要を周知
- 2 月
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラム開催（先進校の取組事例発表）による啓発
 - ・不登校児童生徒への支援についての活用事例集発行による共有
- 3 月
 - ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携強化
 - ・教育ＤＸ普及動画によるＧＩＧＡスクールに関する広報・啓発
 - ・情報モラル教育デジタルコンテンツによる，情報モラル教育のより一層の推進

小学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和 3 年 1 1 月 8 日 (月) 午前 1 0 時から午前 1 1 時 3 0 分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 小学校部会員 1 1 名 (欠席 1 名)

2 重点目標

タブレットを日常的に活用した学びの推進

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

- 多くの学校でＩＣＴを活用した授業が日常的に実施されるようになり，各発達段階に応じた児童の操作技能が高まっている。今後も，授業支援アプリケーションソフトを活用し，課題を配布・回収したり，学習者用デジタル教科書を活用し，書き込みや音声や動画の再生・録音をさせたりするなどＩＣＴの特性を生かした授業を実践する。

(イ)カメラ機能活用

- 児童は，静止画や動画で観察・実験を記録するなど，各発達段階に応じてカメラ機能を活用することができている。今後は，ワークシートやスライド上にある静止画のサイズ変更やトリミング，動画の切り貼りなど，自分の思いが伝わるように編集加工できるように指導していく。

(ウ)文字入力

- 低学年児童は，パスワードを入力する際に，ローマ字入力することができている。
- 中・高学年児童は，キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができている。
自分の考えや学習のまとめを入力する際，タイピング速度や正確性に差がある。
- 各教科学習においてタイピング入力する活動を増やすとともに，タイピング練習アプリケーションに取り組みさせることで技能を高めていく。低学年児童にはキーボードにシールを貼ったり，中学年児童には，ローマ字入力表を配ったりしてサポートする。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

- 写真やファイルの保存，データの呼び出し方を理解している。
蓄積したデータを有効活用するための分類整理に課題がある。
- 過去のデータを素早く呼び出せるよう，日付や単元名など内容がすぐに分かるタイトルをつけるよう，低学年段階から指導する。

(イ)プレゼンテーション力

- 自分の考えを相手に伝えるスキルに課題がある。
- 各教科学習において，表現活動や言語活動を充実させるとともに，静止画や動画，プログラミングアプリケーションなどを表現ツールとして，資料をもとに発表する活動を取り入れる。

(ウ)情報収集力

- 調べ学習など，頻繁にインターネット検索を利用できているので，高学年になると課題解決に必要な情報を素早く検索，収集することができている。
今後も，社会科の資料検索や総合的な学習の時間を中心にインターネット検索で目的に応じた情報を見つけられるよう指導する。

(エ)コミュニケーション力

- オンライン上でのコミュニケーション力に課題がある。
- Web会議アプリを用いて，外部講師を招いたり，オンライン上で他校と協働学習を行ったりする活動を取り入れた授業を実施する。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

- 約束やきまり，友達の気持ちを考えたやりとりを意識してコンピュータ等を使うことができている。
社会や様々な人々への影響を考えてコンピュータ等を使うという意識が希薄である。
- これまでは高学年児童を対象とし，SNS等でトラブルが起こってからの指導が中心であったが，低学年から学級活動の時間や普段の授業の中で必要に応じて適宜，指導することで情報社会の「光と影」の知識を習得させる。

(イ)情報に関する権利

- 人の考えや作品と同じように，自分や他者（身近な存在）の情報を大切にしようという態度が育っている。
インターネット上の情報にも権利があることに気付いていない。
- 著作権や肖像権などの知識を定着させるとともに，図書やインターネット上で検索した情報を資料として活用する際には，出典名を記載するなど利用上の決まりを守ることを徹底する。

(ウ)危険回避

- 低中学年児童は、使い方のルールを守ってコンピュータ等を使うことができる。

高学年になると、保護者の管理下から離れて活用する機会が増える。

- 危険だから使わせないのではなく、使っていく中で様々な危険性に気付かせる。さらに正しい使い方について考える場面を設け、自分で判断できるように指導する。

(エ)情報の取り扱い

- 自他の情報に関する取り扱いに注意することができる。

インターネット上の情報を簡単に信じてしまう児童が多い。

- 調べ学習をする際に、特定の情報からではなく、アナログを含めた情報を収集し比較することで、その正当性について吟味するよう指導する。

(オ)健康面への配慮

- 低中学年は、使用時間の決まりを守ってコンピュータ等を使うことができる。

高学年になるとゲームやインターネットを長時間利用する児童が増える。

- 保健便り等で定期的に、健康に関する注意やペアレントコントロールの必要性について啓発していく。

(カ)情報セキュリティ

- 低学年からパスワードや個人情報について指導するなどセキュリティに関する指導が行われている。

ダウンロードの危険性や、ウイルス感染の原因について基礎的知識を身に付けさせる必要がある。

- 徳島県情報モラル教育サポートサイトやNHK for School等の動画教材を活用して、発達段階に応じた指導を行う。また、巧妙になる手口に対して研修等で教職員の情報セキュリティ意識も高める。

4 端末の持ち帰り状況について

有事の際のみならず、日常的に持ち帰り、学習に活用するのがGIGAスクール構想の目的である。持ち帰りに関する課題の解決案や家庭での端末利用に関する先進的な取組を紹介していく。

(例)

- ・端末のデスクトップや指定のフォルダに宿題データを保存すればインターネットにつながらなくても課題に取り組める。登校してから学校のWi-Fiに接続して提出する。
- ・ドリル教材の活用だけでなく、デジタル日記や調べ学習など家庭学習の内容を工夫する。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

小学校は、研究指定校の公開授業には、毎回多くの先生方に参観いただいている。また、ICT活用についての研修に熱心に取り組んでいる学校も多く「タブレットを日常的に活用した学び」の達成に近づいている。

ただし、児童のスキル差が広がりつつあることに注意する必要があるほか、情報モラルの着実な定着に向けて研究を進める必要がある。

今後は、先進的な取組事例を収集し、G I G Aスクールサポートサイトにおいて公開するとともに、小学校教育研究会とも連携しながら、各教科におけるICT活用法や指導法について研究を進めていく。

（今後の予定）

- 1 月
 - ・積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・県教委事業研究指定校やG I G Aスクール推進本部小学校部会委員所属校の授業動画のG I G Aスクールサポートサイトへの公開
内容：各教科学習での活用，プログラミング，情報モラル教育
 - ・小学校教育研究会理事会にてG I G Aスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・G I G Aスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoomの活用，各教科学習での活用等
 - ・徳島県P T A連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県G I G Aスクール構想の趣旨や概要を周知
- 2 月
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラムでの先進校の取組事例発表
 - ・小教研情報教育部会理事会との次年度の研究主題についての協議
- 3 月
 - ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携の強化
内容：環境整備・活用推進に向けた協議

中学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和 3 年 1 1 月 8 日 (月) 午前 1 0 時から午前 1 1 時 3 0 分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 中学校部会員 1 1 名 (全員出席)

2 重点目標

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善
～「どんどん」「みんなで」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

- アプリケーション活用スキルはおおむね習得できている。
生徒が試行錯誤することにより操作方法に慣れる必要がある。
- 各教科で、MetaMoJiClassRoom等のアプリケーションについて、生徒が試したり教え合ったりする機会を作り、操作に慣れる時間を確保する。

(イ)カメラ機能活用

- 基本的なカメラ機能の操作はできている。写真や動画を使う機会は多い。
最適なファイル形式やファイルサイズを選択して記録するまでは至っていない。
- 目的に応じた写真や動画等の編集・記録の方法を指導し、身に付けさせる。

(ウ)文字入力

- 簡単な文字入力のスキルは習得できている。
自ら吟味した言葉で分かりやすく入力するという部分に課題がある。
- 教科等の課題を解決する中で、まとめや感想などをタイピングする機会を増やす。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

- 課題解決に向けて考えたことを論理的に表現するスキルの習得は十分に身に付いていない。
- 教科等における「探究的な学習」の場面を増やす。

(イ)プレゼンテーション力

- ICTを使った発表の場面は増えている。
ユニバーサルデザインや聞き手に配慮したプレゼンテーション力の向上が必要である。

- 全ての教科で発表する場面を増やして，分かりやすいプレゼンテーションが作成できるように指導していく。

(ウ)情報収集力

- 教科等の特性に応じた情報の検索・収集はできている。
効率的な検索方法や，目的に応じた情報収集が十分にできていない。
- 調べ学習などの際に，効率的な検索方法・目的に応じた情報収集ができているかを確認し，適切に見直す機会を設ける。

(エ)コミュニケーション力

- ICTを利用した様々な場面での協働作業は少しずつ広まっている。
教科等での活用頻度が低い。活用方法が限定されている。
- 英語や，総合・人権学習などで，校内外でのオンラインでのやりとりを行うなど，一緒に協働で作業する機会を設ける。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

- ネットワーク上におけるルール等の重要性には一定の理解がある。
ネットワーク上での責任について，さらに強い自覚が必要である。
- ネットワーク上での行動に伴う責任を自覚させるため，人権教育主事・生徒指導主事等とも連携しながら，組織的に情報モラル教育を進める。

(イ)情報に関する権利

- 自他の権利を大切にしたICT活用は少しずつ進んでいる。
著作権や知的財産権などの権利について，中学校の発達段階に応じた学びを深めなければならない。
- 著作権や知的財産権について，各教科等で資料等を扱う際に関連付けて，指導していく。

(ウ)危険回避

- 危険性を判断できる基礎的な知識・技術はある。
より実践的な力を付けていく必要がある。
- 日常で起こりうる身近な問題について，話し合う機会を設け，自ら危険を回避できる力を育てていく。

(エ)情報の取り扱い

- 情報の取り扱いについての配慮が十分ではなく，情報が社会にどのように影響を及ぼしているかを考え，適切に利用できている生徒は少ない。
- 新聞記事などの身近な事例を取り上げるなど，情報が社会に及ぼす影響について考える機会を適切に設ける。

(オ)健康面への配慮

- 健康を害する行動を自制することへの注意は促してはいるものの，画面を見る姿勢や時間等に注意する必要がある。
- 日常での様子や検診結果の推移などについて養護教諭との情報交換を密にし，生徒に向けて定期的に注意を促すことができるようにする。

(カ)情報セキュリティ

- ＩＤやパスワードの管理などの日常でよく使う知識は身に付いている。
日常において、情報セキュリティを意識して適切に行動できる生徒は少ない。
- これまでに学んできた知識が生かされるよう、端末活用の調べ学習等の場面で、機会のあるごとに指導していく。

4 持ち帰りについての課題と今後の取組

- ・準備はしているものの、実施できていない学校がある。原因としては、情報モラル・情報セキュリティ上の不安や問題があげられる。
- ・市町村教育委員会，学校を通じて，家庭への理解を求める必要があり，保護者の不安解消とともに，家庭で活用することの利点を積極的に呼びかけていく。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

中学校部会では，重点目標の「どんどん」「みんなで」使っていくというスタートのもと，タブレット活用の取組を進めている。

今年度作成された「ＩＣＴスキル習得体系表」に基づき，卒業までに中学校で求められるスキル習得を進めていくため，中学校全体の活用頻度を増やし，レベルアップを図る中で，教科等における学びの向上にもしっかりつながられるように，今後一層の取組を推進していく必要がある。

また，小学校部会と連携し，スキルアップにつながるような好事例の情報提供や横展開を図るとともに市町村と連携をとって推進していきたい。

(今後の予定)

- 1月
 - ・積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・県教委事業研究指定校等の研究（公開）授業をG I G Aスクールサポートサイトに公開する。
内容：各教科学習での活用，校内での活用推進の様子
 - ・第2回中学校担当者意見交換会の開催
G I G Aスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・G I G Aスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoomの活用，各教科学習での活用等
 - ・徳島県P T A連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県G I G Aスクール構想の趣旨や概要を周知
- 2月
 - ・中学校教育研究会理事会にてG I G Aスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラムでの先進校の取組事例発表
- 3月
 - ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携の強化
内容：環境整備・活用推進に向けた協議

高等学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和 3 年 1 1 月 9 日 (火) 午後 1 時から午後 2 時 3 0 分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 高等学校部会員 8 名 (全員出席)

2 重点目標

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」
の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

- 基本的なアプリ (ワープロ・表計算・プレゼン等) についてはある程度使えている。
授業支援アプリについては、各学校により活用頻度に大きく違いがある。
→ Teams , MetaMoJiClassRoomで協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(イ)カメラ機能活用

- 映像の編集や加工までを目標としているため、習得には時間を要している。
→ まずWindowsの標準機能のVideo Editorを利用する。

(ウ)文字入力

- ローマ字入力には慣れているが、キーの割付位置などの端末に依存する部分については十分とはいえない。また情報を整理しながらの入力も十分とはいえない。
→ 意見を整理しながらのレポート作成や、受け手を意識してのメール送信などを行う。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

- フォルダの構造や管理については理解が進んできている。
モデル化やシミュレーションの理解までを目標としているため、習得には時間を要している。
→ ビッグデータの活用例などを紹介し、重要性に気付かせる工夫をする。

(イ)プレゼンテーション力

- ICT活用の中では取り組みやすく、スキルも順調に習得されてきている。
今後も、総合的な探究の時間や、課題研究、ホームルーム活動で発表を繰り返すことにより、さらにスキルを上げる。

(ウ)情報収集力

- 端末の活用の中でも実践しやすい項目であり，スキルも順調に習得されてきている。
- 情報の信頼性の判断が不十分である。
- 簡単な調べ学習などにどんどん取り組みながら，情報の妥当性や信頼性を判断するスキルの習得を目指す。

(エ)コミュニケーション力

- 様々なアプリの共有機能を利用し，複数の生徒で成果物を作る活動はかなり広まっており，スキルも順調に習得されてきている。コロナ禍においては，ICTを利用した活動は非常に有効な手段になるので，今後も今まで以上に協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

- ネット社会における基本的原理を理解し，情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断ができることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。
- 一般的なモラルの延長に情報モラルもあることに留意し，指導を進める。

(イ)情報に関する権利

- 情報に関する法規や制度及びマナー，個人の果たす役割や責任などについての理解は進んできている。今後は，生徒自身の問題として捉え，議論できるように，身近な事例を紹介する。

(ウ)危険回避

- インターネットの危険性についてはある程度理解できているようである。今後は，学んできた知識を適切な行動につなげるとともに，他者を啓発していけるよう，議論しながら考えを深めさせる。

(エ)情報の取り扱い

- 個人情報等の取り扱いについては理解が進んでいる。
- 情報デザインの考え方や，その方法に基づいて表現された情報を評価・改善することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。
- 芸術・数学・情報などで，普段目にする可視化された情報のデザインについて考える授業を行う。

(オ)健康面への配慮

- 自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣について，その意義を理解することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。
- 自らの心身と向き合いながら，端末使用時間の管理や適正な使用を常に意識できるように指導する。

(カ)情報セキュリティ

- 情報セキュリティを確保するための方法や技術についての理解と，それらの利用を考えることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

→ 様々な情報に触れる機会が増えてきており，セキュリティ面の意識の向上は急務である。現在端末に導入されているセキュリティの例を挙げながら具体的に指導する。

4 端末の持ち帰り状況

- ・ 高等学校ではすべての学校が一度以上持ち帰りをさせている。生徒の申し出により自由に持ち帰らせている学校もある。ＩＣＴのスキル向上のためには，やはり「慣れる」という要素が重要なので，持ち帰りをすすめることは非常に重要である。
- ・ 自宅での設定がうまくいかない，自宅から学校に持って帰ってくるとうまく学校のネットワークにつながらない等の問題がある。このような基本的な問題を解決することで，より自宅での利用が進むと思われる。また，持ち帰りさせるためにバッグなどを学校で用意したところも少なくない。このような事例も紹介しながら推進していく。
- ・ 高等学校は生徒の通学範囲が広く，持ち帰りが通学の大きな負担となることがある。持ち帰りをすすめることはもちろんのこと，せっきくのクラウドサービスなので，自宅にある端末やスマートフォンでアクセスして使うことも想定して，利用を促すことも大切である。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

今年度「学校全体での組織的推進」を進めることを重点目標に挙げており，情報担当者や少数のスキルが高い教職員だけではなく，全教職員が少しずつでも着実にＩＣＴを利用した授業や特別活動に取り組む状態を目指している。

しかしながら，教職員のＩＣＴスキルの不足や，マシントラブルなどで活用に積極的になれない等の理由で不十分な状況にあり，年度末に向けて一層の取組を推進していく必要がある。生徒のスキルは予想より高く，機会を増やせば比較的早く効果的な使い方を習得すると考えられる。

今後は，職員研修等を継続的に行ってもらうことで全体の底上げを図り，活用頻度を上げていくとともに，好事例の情報提供をすることで活用イメージを持ちやすくし，教職員の活用頻度を上げていく。

（今後の予定）

- 1 月
 - ・ 積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・ 第２回高等学校担当者会の実施
内容：端末の年度更新，アカウントの年度更新，不具合・故障対応の状況，ＧＩＧＡスクールサポートサイトの活用周知
 - ・ ＧＩＧＡスクールサポートサイトで，好事例，端末のトラブル対応法，便利な使い方等についての情報発信
 - ・ ＧＩＧＡスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoom，MS365の活用，各教科学習での活用等
- 2 月
 - ・ 徳島県「教育の情報化」推進フォーラム高等学校部会で，端末を使った先進的な取組事例を発表してもらい，参加者で協議する。

特別支援学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月8日(月)午後3時30分から午後4時30分まで
(2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
(3) 出席者 特別支援学校部会員7名(全員出席)

2 重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I（いつも）C（ちょっと）T（たのしい）」活用を～

3 校内ミニ研修の実施状況について

(1) 特別支援学校 1 1 校で実施

- ア 実施期間（令和3年9月～令和3年12月）

- ## イ 実施の流れ

各学校へ依頼

各学校での実践

校内三二研修（様式1）

授業実践

評価

事務局で取りまとめ

- ### ウ 校内ミニ研修の例

(学部会の後半10分で実施)

Plan (計画)

- ・学習グループ・クラス等で話し合いを実施
- ・端末を準備してアプリケーション使用
- ・様式1の「見込める効果」「使用に当たって工夫した点」について話し合いを実施

D o (実施)

- ・担当授業等でアプリケーションを使った授業実践

Check (確認)

- ・ 様式 1 の 「 実際の効果 」 を報告後に協議
 - ・ アプリケーションの有用性について検討する
- 課題や困った点も貴重な情報

[illegible]

(2) 主なアプリケーション

視覚障がい

・「のじぎく」シンプル デイジープレイヤー，UDブラウザ，タッチ！あそべビー
聴覚障がい

・MetaMoJi Classroom，Microsoft Teams，Microsoft Word

知的障がい

・コバリテ・コミュニケーション，ワークWatch

・かぞえ10，あわせ10，あすけん ダイエット記録，とびだす動物タッチ

肢体不自由

・かなトーク，絵カードタイマー，えこみゅ，アイビスペイントX

病弱

・キラキラお絵かき for iPad，効果音&BGM集，GarageBand，Time Timer

(3) 今後の対応について

- 各校の成果を徳島県G I G Aスクールサポートサイトに公開し，情報共有
- 実際に使用効果の高かったアプリケーションを特別支援学校11校の校内研修で紹介

4 各校の「1人1台端末」等を用いた特色ある実践について

(1) 特別支援学校3校が隣接する病院と遠隔教育を実施

板野支援学校，鴨島支援学校，ひのみね支援学校

日時：通年を通して実施

内容：Web会議システム会議システムを用いた学習活動

場所：各学部教室と病棟

(2) 池田支援学校美馬分校がSDGsの取組を地域へ発信

池田支援学校美馬分校

日時：令和3年10月14日（木），10月28日（木）

内容：一般県民へ生徒がタブレット端末やプレゼンテーションソフト
を用いて，仕事内容の紹介やカフェの疑似体験等を実施

場所：みまカフェと一般県民の自宅等

(3) Zoomで各特別支援学校をつなぎ，交流活動を促進

特別支援学校ゆめチャレンジフェスティバル

日時：令和3年12月15日（水）13：00～16：00

内容：特別支援学校中学部や中学校特別支援学級の生徒へ，
特別支援学校の取組（働こう宣言，技能検定等）を紹介

場所：徳島県立総合教育センターと各特別支援学校，中学校
とくしまスポーツ交流大会

日時：令和4年1月19日（水）10：30～15：00

内容：四国4県の特別支援学校について，Zoomで各校をつなぎ，
ターゲットボッチャ大会を実施

場所：北島北公園総合体育館と四国4県の各特別支援学校

不登校児童生徒の学びの支援検討部会 報告資料

1 部会の方向性

- テーマ「つながる」(学校・友だち・担任・教室etcとの「つながり」)
(R 2 第 1 回部会より)

「つながる」を大きなテーマとして、「心のサポート的な支援」や「学びの支援」について、今まで行ってきた不登校等の児童生徒への支援に培った見識に基づき、よりきめ細やかな支援の充実を図っていく。

2 徳島県 G I G A スクール構想を活用した不登校等の児童生徒への支援事例 (R 2 第 1 回部会より)

- (1) 家庭訪問の代わりにタブレットで、朝または夕方等に児童生徒や保護者と連絡をとる。(まずは、つながること、顔を見ること、声をかけること)
- (2) 担任からの連絡やクラスの様子をタブレットを通して伝える。
- (3) 別室登校、保健室登校の児童生徒に対して授業の様子を配信する。
- (4) 学校行事等、学校や教室の様子を配信する。
- (5) 教室の自席にタブレットを置いて、授業やホームルームの様子を配信し、教室の雰囲気伝える。
- (6) 朝礼等での校長講話を、各教室に配信するのと同じように、保健室や別室にも配信する。
- (7) 宿題や学習用プリント等の配信→提出→添削→返却。 等

3 モデル校での調査研究 (R 2 第 2 回部会より)

(1) 実施要項 (一部抜粋)

モデル校は、児童生徒の実情に応じた研究目標を設定し、不登校等の児童生徒への支援を行うに当たって、既存の I C T 環境に加え、徳島県 G I G A スクール構想の推進で整備される I C T 環境を活用することで、次のいずれかのうち 2 つ以上の内容を含む実践的な調査研究を行う。

- (ア) 児童生徒や保護者等とのコミュニケーションの活性化を図る I C T 活用
- (イ) 児童生徒の心のサポートを図るための I C T 活用
- (ウ) 別室 (保健室等) 又は自宅や病院等の児童生徒に対するオンライン教育における I C T 活用
- (エ) I C T を活用した教材の作成及び児童生徒への提供方法、並びに個に応じた指導における I C T 活用

(2) モデル校での取組状況 (各校への聴き取り：6 月末～7 月上旬)

担任や養護教諭と W e b 会議システムで繋ぎ、話をする機会をもつ
保健室や自宅への授業配信
学校行事等の保護者への配信
夏休みのタブレットの持ち帰りに向けての試行
全児童生徒への一斉送信 等

4 不登校児童生徒への支援の取組状況調査 (1 0 月中旬)

(1) 目的

I C T を活用した不登校等の児童生徒への支援の事例を収集・普及することで、従来から行ってきた不登校等の児童生徒への支援を更に充実させていくことを目的とする。

(2) 対象

県内全ての公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校

5 取組事例

	場面等	具体的な取組	成果	課題
1	別室（保健室・空き教室等）	- Web会議システムで学級と繋いで授業を実施。 - ノートを取ったり、チャットやスタンプなどで担任の問いかけに反応したりしている。	- 該当児童は、積極的に授業に参加。 - 級友らも一緒に授業を受けられることを喜んでいる。 - 休み時間には、級友がホスト端末の近くに集まり、コミュニケーションを図っている。	- 端末や回線の問題。 - 通信の質の低下。 - 当該児童の登校時間が曖昧なため、規則的対応が困難。 - 他の不登校傾向の児童に対しての説明をどうすべきか。
		- Web会議システムで学級と繋いで授業を実施。 - 他の教員が当該児童と同じ部屋でサポートを行う。	- サポートがあることでストレスが減り、登校出来るようになってきた。 - 本人・保護者ともにとっても良い反応。 - 様々な研修会や講習会で、この事例の紹介をしている。	電源ONでいつでも使用できるよう、日々のメンテナンスに苦労している。
		Web会議システムで教室と繋ぎ、授業を実施。	- 普段顔を合わせない級友と一緒に授業を受けることができ、楽しそうに授業に参加できた。 - 級友が、別室を訪れたり、数回だが、実際に教室に入って級友と一緒に授業を受けたりすることができた。	- 教室にもタブレット端末を置く必要があるため、不登校生徒の意思確認が必要。 - 顔を見られたくないのか、カメラとマイクをOFFにしている。そのため、生徒の反応が分かりづらく、授業が一方通行になる。
		- リモートでの授業参加。 - 児童側のカメラとマイクはOFFにし、支援者がチャットで関わる。 - 授業を受けるだけでなく、学級の雰囲気も味わわせるように配慮する。	「教室で授業を受けてもついていけない、分かる」素地を培うことができていく。 - 徐々に力と自信をつけて、教室で他の児童と一緒に活動する時間が増加。	- リモートによる授業支援を行える職員の確保。 「このままずっとリモートによる学習活動でよい」と思われないような手立て。 - 級友たちの理解をどう得るか。
		Webドリル教材を使用した学習。	- 基礎・基本の定着。 - 支援者や担任は、取り組んだ課題のデータを基に、今後の対応を検討することができる。 - 対応状況の共通理解で、他学年の指導にも活かしている。 - データ等の共有による学習準備の時間短縮。	- ICT機器やソフト（アプリ）の効果的な活用についての教材研究の時間確保。 - スキルの高い教職員への過重負担。
	適	文化祭の生中継や学級旗紹介・パフォーマンスをWeb会議システムで見られるようにする。	文化祭の様子を事後に見られて大変好評だった。	特になし。

2	応 指 導 教 室	・リモートでの授業参加。 ・数学の授業動画の配信。	・リモート授業には、最初は緊張していたが、参加できた。 ・授業の動画配信は、いつでも生徒が視聴することができ、都合の良い時間に学習できた。	・リモート授業で使用する学習プリントを事前に家庭に届ける必要がある。 ・授業時間や授業内容の変更等を、事前に伝える方法の工夫。 ・全てのリモート授業に参加できないので、生徒によって学習の進度が違ってくる。 ・リモートでの授業を受けている生徒の理解度が分かりづらい。 ・だんだんとリモート授業に参加しなくなった生徒がいる。
3	自 宅	・病気で欠席しがちな児童に対して、ICTを活用した心のサポート的支援。 ・Web会議システムを活用して担任とコミュニケーションを図る。 ・始業から下校まで、教室の様子を配信。 ・学級の雰囲気を感じてもらう。 ・休み時間や放課後に1対1で行うWeb会議で担任と会話。(マイク・カメラON)	・本人の希望で、カメラやマイクはOFFにしているが、児童は毎日の配信を楽しみにしている。 ・級友が、画面越しに話しかけたり、できた作品を見せたりして積極的に関わろうとしている。	・特になし。
		・児童用タブレット端末のアラームを設定し、朝起きられるようにする。 ・時間割等の予定を伝える。 ・ビデオ通話で児童の状況や様子を確認。	・児童本人と直接コミュニケーションをとることができ、当該児童の言いたいことや気持ちが教員に伝わりやすい。 ・時間や手間をかけずにスピード感をもって次の対応に繋ぐことができる。 ・心身の状態の把握などができる。	・児童側のタブレット端末で受け入れが選択できるので、学校側からコミュニケーションをとれないこともある。 ・ビデオ通話で表情を見ようとしても、映してもらえない時もある。
		・コミュニケーションツールのアンケート機能を使った毎日の健康調査。 ・不安なことや心配なことについて、記入・送信することで、養護教諭がダイレクトに相談活動を行う。	・毎朝、健康調査が送信されており、家庭でも早起きをして健康的な生活を送ることができる。	・家庭との連携が重要である。 ・家庭の通信環境の整備。 ・端末の不具合に即応できない。

- 6 今後のスケジュール
- *モデル校への聴き取り
 - *活用事例集等の作成
 - *第3回部会の開催(1月中)
 - *活用事例集等の完成・各校への配付

分類		ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4	ステップ 5
(1) 基本的な操作等	(ア) アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	(イ) カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	(ウ) 文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
(2) 問題解決・探究における情報活用	(ア) 分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表示し、最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。 ・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	(イ) プレゼンテーション力	・ペイントアプリ（プログラミングアプリ）で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	(ウ) 情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	(エ) コミュニケーション力	・オンラインで、画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話し合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い、話し合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom、Classi、Zoomの共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話し合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
(3) 情報モラル・情報セキュリティ	(ア) 情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	(イ) 情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	(ウ) 危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせて適切に対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	(エ) 情報の取り扱い	・知らない人に個人情報をお話することが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	(オ) 健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	(カ) 情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報流出する原因やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

ステップ 1・・・小学校低学年の発達段階を想定したもの
ステップ 2・・・小学校中学年の発達段階を想定したもの
ステップ 3・・・小学校高学年の発達段階を想定したもの

ステップ 4・・・中学校の発達段階を想定したもの
ステップ 5・・・高校の発達段階を想定したもの

重点目標に沿った事例（小学校）

（１）小学校１年生の取組事例

ＩＣＴスキル項目	（１）基本的な操作等 （ウ）文字入力
学習活動名	国語「新出漢字の学習」
学年	１年生
学習活動・ＩＣＴ活用の概要	  新出漢字練習コンテンツは、市販の漢字ドリルに掲載されているＱＲコードをアプリ「ＱＲコードリーダー」で個々に読み込ませて、立ち上げていく。 本コンテンツは、タッチペンでタブレット画面をなぞっていくのが基本だが、ただ文字をなぞって字形を整えればＯＫというのではない。書き順の正しさや始筆を始める点や向きも問われ、紙での反復学習ではできない学びの評価が即表示される点は、タブレットならではの学びといえる。 また発展問題として、書き順クイズがあり、正答・誤答の確認も即できるため、個々の進度に応じた学びができる。 紙に書く指導と平行して、漢字に対する児童の意欲を向上させたり、補充学習を充実させたりする効果が見られている。 低学年児童に対する心配として「タブレットを落としたり、壊したりしないか。」「パスワード入力や管理ができるか。」「アプリケーションを適切に使えるか。」等を想定していたが、学期が進むにつれて、どの子も活用スキルが向上している。

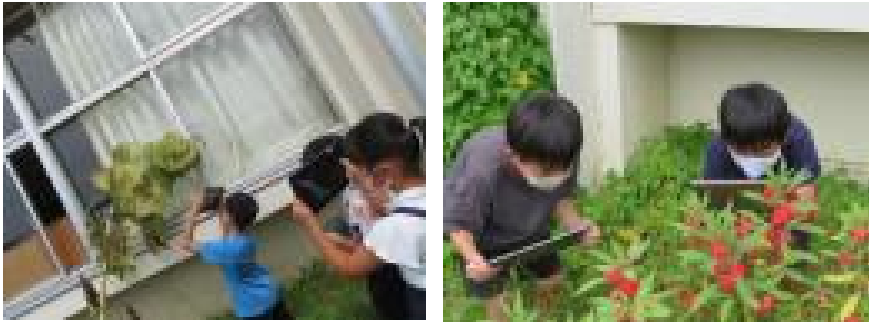
- ・ デジタルドリル教材の書き取りでは、書き順やとめやはらいなど正しく書けないと次に進めないという仕組みになっているので、細かな部分まで正確に定着させることができる。
- ・ デジタルドリル教材を活用することで個に応じた学びを実現している。
- ・ 紙媒体のドリルで反復学習に取組、デジタルドリルで確認するという使い方は、それぞれの良さを生かした取組である。

(2) 小学校 2 年生の取組事例

I C Tスキル項目	(1) 基本的な操作等 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	「ぐんぐんそだて わたしの野さい」(生活科)
学年	第 2 学年
学習活動・ I C T活用の概要	第 1 次「野さいをそだてよう」 自分が育てる野菜を決め，苗を植える。タブレットカメラで写真を撮る。活動を振り返り，野菜日記を書く。 第 2 次「野さいのせわをしよう」 野菜の様子を観察して写真に撮った後，必要に応じた世話をする(資料 1)。写真に撮るだけでなく五感も使って観察させる。教室に戻り，においや触感などの気付いたことをマークアップ機能で写真に直接メモさせる。 その後，成長や世話の様子を野菜日記に書く(資料 2)。 資料 1 (写真を撮る様子) 資料 2 (野菜日記を書く様子) 第 3 次「野さいをしゅうかくしよう」 休み時間等を使い，熟した野菜を収穫し，写真で記録する。収穫した時や食べた時のことを振り返り，気付いたことを野菜日記に書く。 第 4 次「野さいのようすをつたえ合おう」 野菜作りでお世話になった人への報告とお礼の意味を込めて，活動の様子をまとめた「野菜新聞」や「野菜絵本」を作り読んでもらう。書きためてきた野菜日記や写真を使い，成長の様子がよくわかるようにする。 資料 3 (野菜新聞)

- ・ 目的に応じて近接して撮るなど用途に応じた撮影を意識させ，伝えたい事柄に応じて写真を選び，書き込みをして表現に使えるようになった。
- ・ 必要な写真を撮るという活動が，フォルダ整理や必要な資料選択など今後の新たなスキル修得につながっている。

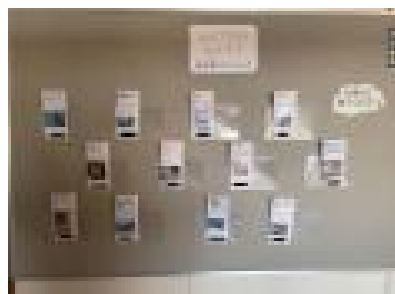
(3) 小学校 3 年生の取組事例

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	理科「植物の一生」
学年	3 年
学習活動・ICT活用の概要	 ハウセンカ，マリーゴールド，ひまわりを学級園で育て，実ができた様子をタブレットを使って撮影した。実の様子は複雑で，絵に表すのが苦手な児童にとっては描き表しにくい。しかし，撮影する活動にすると，絵が苦手な児童も興味を持って活動に参加し，それぞれの植物の特徴的な部分を捉えるようアングルを工夫する姿が見られた。観察記録としては写真を見てゆっくりと絵に描くことができ，継続的に撮影することで植物が育つ様子をまとめやすくなったと思った。 3 年生では，「(1)基本的な操作等」のステップ1～ステップ2，「(3)情報モラル・情報セキュリティ」のステップ1の習得へと進んでいる。コンピュータやデジタルカメラなどを使うことが効果的な場面において自分のタブレットを使用することで，児童の意欲や興味が広がったように感じる。

- ・植物の特徴的な部分を捉えるようアングルを工夫して撮影した写真を模写することで，学びを深めている。
- ・コンピュータやデジタルカメラなどを効果的に使うことは，児童の学習意欲を高め，興味を広げている。
- ・毎日少しでもタブレットにさわる時間や活動を取り入れ，教師・児童ともにスキルアップを図っている。

(4) 小学校 4 年生の取組事例

I C Tスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作 (イ) カメラ機能活用
学習活動名	総合「徳島県観光ツアーのリーフレットを作ろう！」
学年	4 年
学習活動・I C T活用の概要	徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」の電子パンフレットを用いて、徳島県の観光名所や郷土の文化、食べ物について調べる。 気になったものについて、ホームページを検索したり、図書館で借りた本を読んだりして調べる。 リーフレットに掲載するための画像をホームページからダウンロードする。インターネット上の画像には権利があること、個人使用でない場合は、法律に触れるということを伝える。 リーフレットに掲載するための顔写真をペアで撮り合う。 AirDrop機能を活用し、撮影した写真を本人に送る。 Metamoji Classroomを活用し、ダウンロードした画像および顔写真のサイズを調節しながらワークシートに貼り付ける。 プリントアウトし、調べた観光名所や文化、食べ物についての紹介文を書き込む。 (効果) ・学習の意欲付けに役立っている。 ・文字を書くことを苦手とする児童が、端末を使用することで、完成度の高い作品を作ることができ、達成感を得ることができる。 ・発声がしにくい児童が、端末の文字入力機能を活用することで、コミュニケーションがとりやすくなった。



- ・インターネット，図書それぞれで調べ学習を実施，自分が必要とする情報を選択することができる。
- ・活動にあわせて著作権についても指導できている。
- ・写真の配布や加工などタブレット機能を効果的に活用している。
- ・発表しづらい児童も意見を共有することでコミュニケーションを図れるようになっている。

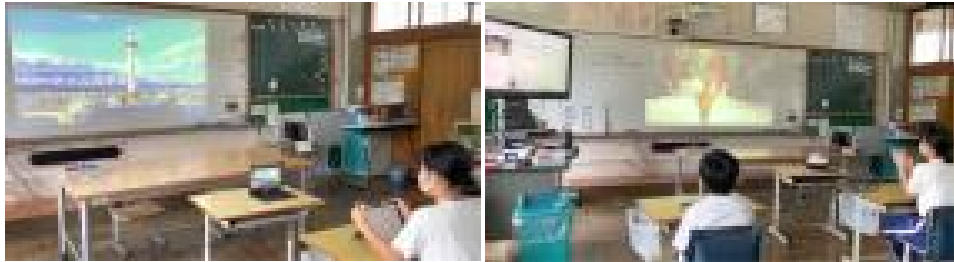
(5) 小学校 5 年生の取組事例

ICTスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (イ) プレゼンテーション (ウ) 情報収集力
学習活動名	社会「自動車の生産にはげむ人々」
学年	5 年
学習活動・ICT活用の概要	自動車の生産について学んだ後，単元の最後に「自分がデザインした自動車を発表しよう」という学習課題を設定した。児童は，学んできたことをもう一度動画（NHK for School等）や資料などで見返して確認し，誰のためにどんな自動車をデザインするか考えた。 自分がデザインした自動車をロイロノートでスライドをつくるようにし，思考ツールを使って考えを整理しながら進めるようにした。図や写真，文字の大きさ・色，手書きなど，様々な工夫をしながらつくり，作成したスライドをもとにした発表会を参観日に実施した。



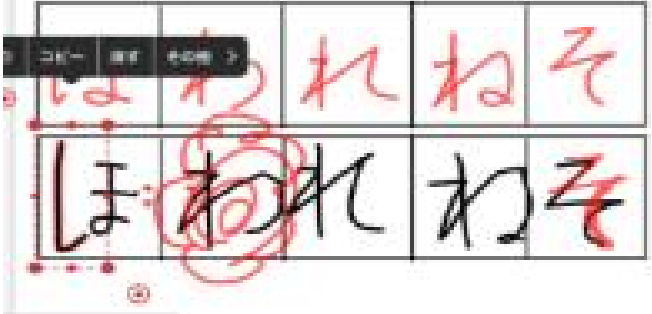
- ・ 思考ツールを使って思考の流れを図式化することで，自分の考えを整理しながら学習を進めることができている。
- ・ 図や写真，文字の大きさ・色，手書きなど，様々な工夫をしながら発表資料作りができている。
- ・ 動画や資料を利用して学習の振り返りができている。

(6) 小学校 6 年生の取組事例

ICTスキル項目	(1) 問題解決・探究における情報活用 (イ) プレゼンテーション
学習活動名	総合「バーチャル修学旅行」
学年	6 年
学習活動・ICT活用の概要	 修学旅行は子ども達の小学校生活一番の楽しみであり、我が国の歴史を直接体験する意味でも大切な行事である。しかし、昨今のコロナ禍の状況から京阪神への修学旅行を実施することができない。だが、今まで行ってきた事前学習や修学旅行後の事後学習まで実施しないと、歴史学習の深まりが浅くなってしまう。 そこで、バーチャル修学旅行を企画し、修学旅行で見学をするコースをそれぞれの児童が担当し、調べ、まとめ、発表を行った。資料は、小中学校9年間のスタディログに記録している。 海陽町はGIGAスクール構想が始まる4年前から、擬似的な1人1台端末を実現し、全国的な流れに先駆けてICTを活用した教育に取り組んできた。このため、子ども達や海陽町の教員のICTスキルは高く、スムーズに1人1台端末を効果的に生かすことができている。端末は、クラウドを中心に設定しており、1人1IDの実現や、学校を超えた交流学习、AIドリルを利用した自習や家庭学習に日常的に取り組んでいる。

- ・ 修学旅行で見学をするコースをそれぞれの児童が担当し、調べる、まとめる、発表することで歴史学習を深めている。
- ・ 小中9年間の学びのポートフォリオを作成している。
- ・ 先進的な事例創出に励み、児童・教師のスキルレベルが高い。

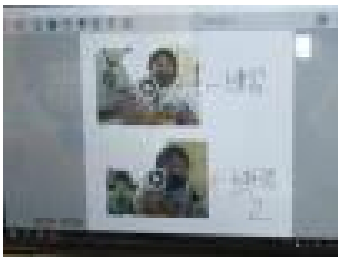
(7) 小学校特別支援学級の取組事例

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作
学習活動名	国語 (生単) 「正しい形で文字を書こう」
学年	特別支援学級
学習活動・ICT活用の概要	文字の形崩れが激しい児童に正しい形を意識させるためのトレーニングにMetaMoj iを使用している。マスだけの状態で配布し、学習中に気になった文字を上段に朱書きし、その下に練習する。 ノート上では手本と自分の字を見比べても形崩れに気付きにくいですが、MetaMoj i上だと、自分の字の上に手本を重ねて比べたり、直したいパーツだけを操作し、大きさや位置の変更をすることで、どこを直せばよいのか気づき正しい形で書き直すことができています。  (成果) ・アプリを立ち上げ、指定した配布教材を開くことができるようになった。 ・タッチペンを適度な筆圧でスムーズに使えるようになった。 ・文字を消したり、動かしたい物だけを選択して移動・大きさの変更ができるようになった。

- ・児童の特性に応じてタブレット機能を効果的に活用することでねらいをしっかりと達成できている。
- ・タッチペンやアプリケーション操作をしっかりと習得することができている。
- ・指導者がより良い使い方を模索している。

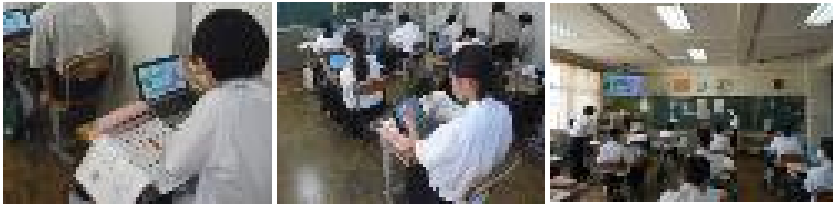
重点目標に沿った事例（中学校）

（１）中学校１年生の取組事例１

ＩＣＴスキル項目	（１）基本的な操作等 （イ）カメラ機能活用
学習活動名	音楽「ボディパーカッションに挑戦しよう！」 （アプリ：MetaMoJi Classroom）
学年	１年
学習活動・ＩＣＴ活用の概要	【目標】音の出し方を試行錯誤しながら，ボディパーカッションの表現をグループで創意工夫する。 【概要】タブレットＰＣの録画機能を活用し，自分のグループの演奏を客観的に確認し，音の出し方や，表現等を試行錯誤し，よりよい演奏となるよう創意工夫する。  1.演奏を録画している様子  2.演奏を確認している様子  3.タブレットの画面  4.演奏を見て話し合う様子

- ・ カメラ機能はたくさんあるが，授業で活用して，自分の変容を記録して気付くなどは，英語や国語の朗読や体育や音楽などの表現活動で使い勝手が良いものであり，広げる手段として好事例。
- ・ 誰でも（授業の）どこからでも取り組むことができる事例。

(2) 中学校 1 年生の取組事例 2

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ア) アプリケーション操作
学習活動名	技術・家庭（家庭分野） 「バランスの良い食事について考えよう」
学年	1 年
学習活動・ICT活用の概要	中学生に必要な 1 日分の食事について考える。 ・献立作成ツール（Excelで作成）で，献立の組み合わせを考える。その後，考えた献立の食品群別摂取量を入力し，6 群食品群のバランスを整える。 ・考えた献立をまなびポケットを活用して提出させ，献立をTVで提示して発表させる。 ・献立の工夫について，ワークシートに書かせたものをタブレットのカメラで撮影し，提出させて，TVで提示する。 

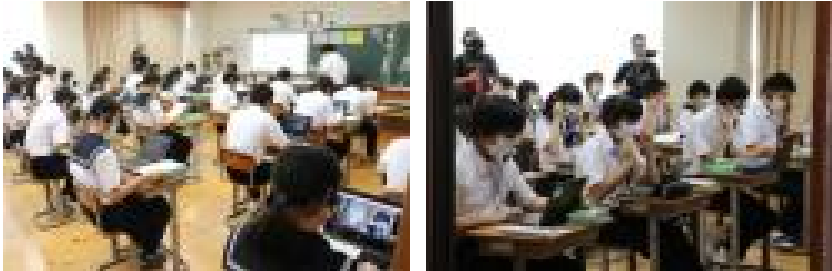
- ・複数のソフトを用いた，ICTの効果的な使い方を重視した取組。
- ・「エクセル」など，どの教員にも馴染みのあるソフトの活用例なので，他の教科でも使いやすい。
- ・この授業は，毎年続けることで，どんどん良いものになり，時間短縮などの業務改善つながる利点が考えられる。エクセルを使ってデータベース化することで，データ整理で時間がかかっていたが，短縮されて考える時間が生み出される。
- ・今後，栄養士や養護教諭との連携にもつながる。
- ・TVなど，現状の学校にあるものも積極的に活用している。
- ・1年生対象ということもあり，ICT活用が複雑な操作にならないような配慮や工夫が見られる。

(3) 中学校 2 年生の取組事例

ICTスキル項目	(1) 基本的な操作等 (ウ) 文字入力 (2) 問題解決・探究における情報活用 (エ) コミュニケーション力
学習活動名	数学 各単元の予習
学年	2 年
学習活動・ICT活用の概要	数学で単元を進む際に，生徒に予習が必要となる問題と解答を与え，その解答への導き方をタブレットを利用して説明させている。生徒それぞれが，その単元についてTeamsのClass Notebookにまとめ，発表の際にオンライン会議の画面共有機能を用いて説明させている。 「思考・判断・表現」の「表現」の部分を補う内容となっている。

- ・ ICTを用いて解答へのアプローチを説明させることで，効果的にプレゼンテーション力を育むことができる好事例。
- ・ ICTによって，必要なことを効率よくまとめ，思考する時間を十分に確保することができた好事例。
- ・ TeamsのClassNotebookの活用は，教科を超えた実践となっている好事例。

(4) 中学校 3 年生の取組事例

I C Tスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (エ) コミュニケーション力
学習活動名	英語「AI Technology and Language」
学年	3 年
学習活動・I C T活用の概要	 生徒同士のペアワークでGoogleMeetを活用した。別々のルームに生徒をペアで入れることで、席を移動せずにやりとりをすることが可能である。1 度目は、自分と意見が同じ生徒、2 度目は、自分と意見が異なる生徒とやりとりをさせることで、ペアワークに意味づけをして活動させることができ、対話活動の充実につながった。ヘッドセットを併用することで、他のペアの会話内容が混線することもなく、互いの意見を十分に伝え合うことができた。

- ・オンラインを取り入れた授業は、今後、家庭における端末の活用を広めておくためにも、この事例のように日常から学校で行い、生徒たちが少しずつ慣れていくという意味で良い紹介になる。
- ・うまくオンラインが繋がらなかった時などでも、事例のような学習の経験が生き、トラブルを自分で回避・修正できるということを伝えられる。
- ・その場で、ペアワークできる手軽さや、いろいろな人と話し合いができる便利さを紹介できる事例。

重点目標に沿った事例（高等学校）

（１）高等学校での取組事例 1

ＩＣＴスキル項目	（３）情報モラル・セキュリティ （ア）情報社会の倫理 （ウ）危険回避
学習活動名	社会と情報 ネットワークコミュニケーション（ＳＮＳの使い方）
学年	1 年
学習活動・ＩＣＴ活用の概要	  MetaMoJiClassRoom 使用 ＳＮＳ等に関して友人からされて嫌な行為 ・ 5 つのアイコンを並べ替える ・ グループ内で各自の画面を見せ合いながら順番や理由について意見共有 ＳＮＳ等に関して嫌な行為の理由 ・ 各グループで担当を決めて各番号の部分に入力 ・ モニタで意見共有 ・ 班の代表者が意見をまとめて発表

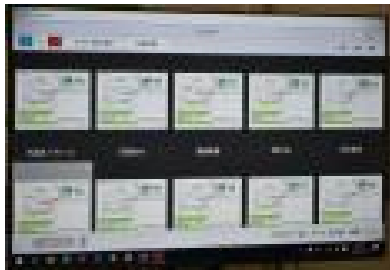
- ・ 情報モラルについての内容を，単なる教師からの伝達とならぬよう，授業支援ツールを使った協働学習とし，生徒が主体的に考えられるようにしている。ＳＮＳに関する指導内容がより効果的に浸透すると考えられる。
- ・ 効果的な使用方法について各教員が試行錯誤することにより活用のレベルを上げているとの報告から，学校全体で取り組んでいるようすがうかがえる。
- ・ 課題としてアプリケーションの操作方法の説明や不具合の対応に時間がかかっているとのことであるが，授業者がその時々到场当たりの対応するのではなく，ノウハウの共有により，組織的に進めようとしている点が評価できる。

(2) 高等学校での取組事例 2

ICTスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (ア) 分類整理・まとめる力 (ウ) 情報収集力 (3) 情報モラル・セキュリティ (エ) 情報の取り扱い
学習活動名	「探究」課題探究中間発表会に向けて 総合的な探究の時間
学年	2 年
学習活動・ICT活用の概要	・「答えのない社会」「変化が当たり前の社会」を生き抜くために必要な力を探究活動を通じ磨く。 ・探究活動は，探究課題・仮説の設定を終え，解決策を見いだすために，インターネットを中心とした文献調査やアンケート集計を行い，課題に対し多面的に考えることができる。 ・今後はさらなる検証を行い，ICTを通じ仮説を検証する力を身につけていく。  

- ・ 1 人 1 台端末を用いることで，生徒 1 人 1 人が自由に文献調査・アンケート作成やその集計を行うことができる。このように生徒に自由に使うことにより，ICTを文房具として，日常的に活用するための取組となっている。
- ・ データの収集，統計的な処理等をICTにより効率的に行うことにより，考察に十分時間をかけることができるようになることが期待できる。ICTにより，従来の機能を代替するだけでなく，より質の高い活動が実現している点が良い。
- ・ ICTを用いることにより一斉授業が双方向型の授業になるとのコメントがあり，生徒の主体性を育み，情報収集力やプレゼンテーション能力を向上させることに成功しており，好事例である。

(3) 高等学校での取組事例 3

ICTスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (エ) コミュニケーション力
学習活動名	生物基礎 「光 - 光合成曲線」
学年	3 年
学習活動・ ICT活用の概要	  MetaMoJiClassRoomでめくりや、付箋機能を使用し重要な用語やポイントを確認させながら授業を進めた。陽生植物と陰生植物のグラフを光補償点，光飽和点に注意しながらタッチペンを使用し，グラフ書かせた。またTVに生徒のタブレット画面を投映し，情報共有なども行った。後日授業で使用したパワーポイントをMicrosoftTeamsで配布し，授業の復習を行った。その後ClassiのWebテストを使って単元別の授業の確認をさせた。

- ・ 授業支援ツールの活用だけではなく，クラウドサービスを用いての復習，Webテストを使って授業の確認といったように，一連の教科の取組の過程において，場面に応じて最適なツールを選択することでICTがうまく取り入れられている。
- ・ 授業の中でMetaMoJiClassRoomにより，生徒同士で実験結果について情報共有させており，協働的な学びを実現しているのがよい。
- ・ グラフの作成をデジタルで行うことは，何度も書き直すことができるという紙にはないメリットがあり，理科において，生徒が自分で試行錯誤できるという点で，非常に効果的な使い方である。
- ・ Webテストを使うことは，教員の業務改善にもつなげることができ，組織的な推進を進めるために有効であると考えられる。

(4) 高等学校での取組事例 4

ICTスキル項目	(2) 問題解決・探究における情報活用 (エ) コミュニケーション力
学習活動名	生徒会オンラインミーティング 「成年年齢引き下げへの対応や各校の抱える課題について」
学年	3 年
学習活動・ICT活用の概要	 「成年年齢引き下げへの対応や各校の抱える課題について」というテーマで、Zoomを用いて協議を行った。参加校は、つるぎ、城ノ内中等教育学校・高校、海部、脇町、徳島商業、板野、阿南光高校の7校で各校の生徒会役員が参加した。初めに、自己紹介を行い、その後、テーマについて討論をした。

- ・ICTの利点を生かして、7校での距離を越えた交流を実現している。このような活動の事例をどんどん広めることで、同様の交流が活性化することにも力を入れてほしい。
- ・「成年年齢引き下げ」という今日的なテーマについて、生徒それぞれが自分のこととして考えることができるようにするため、交流学习を行うという目的がはっきりしており、ICT活用という手段が目的になっていない点が良い。
- ・初めは基本的な操作を指導するところからだったのが、現在では生徒だけで会議を開催し、様々な機能を使って交流を深めている。生徒が自分で主体的に、ICT機器を文房具として利用できるよう、継続した指導・支援を行っている好事例である。
- ・このような取組には複数の教員がかかわる必要があり、組織的な推進をすすめるきっかけとして取り組みやすい。

不登校児童生徒への支援の取組状況調査の回答より（一部抜粋）

1	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	別室登校をしている児童と、在籍している学級とをWeb会議システムでつないで授業を行っている。別室から児童は自身のGIGA端末を用いてWeb会議システムに接続し、授業を聞きながらノートを取ったり、チャットやスタンプなどで担任の問いかけにも反応したりしている。
	課題・問題点・苦労している点等
	端末や回線の問題で、インターネットに接続できない部屋があったり、通信の質が低下し会話が途切れたりビデオが静止してしまったりすることがある。 また、接続に手間取り、授業が中断されたり、授業の開始が遅れたりすることがある。当該児童の登校時間も曖昧な為、規則的に対応しづらい。
	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	当該児童は、積極的にオンラインでの参加をしたがっている。保護者の方もポジティブに捉えてくれ、取組に協力的である。また、在籍学級の児童らは、Web会議システムであれど同じ授業と一緒に受けられることを非常に喜んでいる。休み時間にはホスト端末の近くに集まりコミュニケーションを図っている。
2	先生方の反応・感想等
	GIGAスクール構想の推進により整備されたICT環境を活用しての不登校支援は非常に効果的で意義のあるものだと感じる。しかし、それを見ている学級の不登校傾向児童が同じように「自分も別室で授業がしたい」と言い出さないかが心配である。公共性のあるものにすべきか、特例として説明すべきかの判断が難しいと考える。
	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	2年前まで不登校が続いていた6年の児童。学校に来て別室登校であり、交流学級とは別の教員が対応しているので、同じ進度、同じ内容では学習できていなかった。そこで、Web会議システムを使い、教室から校内遠隔学習を試みた。別室でその授業をGIGA端末を利用して参加している。他の教員が当該児童と同じ教室で対応しサポートを行っている。これにより精神的なストレスが減り、登校できるようになってきた。
	課題・問題点・苦労している点等
	電源ONでいつでも使えるようにするため、日々のメンテナンスに苦労をしている。
	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	抵抗なく交流学級と同じ内容を学習することができるので、良い方向に向かっている。保護者の反応もとてもよく、中学校でも続けてほしいという願いがある。

	先生方の反応・感想等
	様々な研修会や講習会で、この事例の紹介をしている。同じ町内の学校にも同じ状況の子どもがおり、この方法を取り入れて学習に生かしている学校もある。 他の教員もこの方法は、学びの保障になる取組なので、私たちもどんどん取り入れていきたいと話している。
	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
3	・病気で休みが続く児童について、ICTを活用した心のサポート的支援をしている。 ・Web会議システムを通して、担任とコミュニケーションを図っている。また、始業から下校まで、教室の様子を配信し、学級の雰囲気を感じてもらえるようにしている。 ・学級の児童が、画面の向こうにいる友達に話しかけたり、できた作品を見せたりして積極的に関わろうとしている。
	課題・問題点・苦労している点等
	今後も、リモートによる教育支援を続けたいので、継続して家庭への貸し出しをお願いしたい。
	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	・児童の希望があり、本人の顔やマイクはOFFにしている。そのため、学級の友達や担任からの一方通行の配信であるが、当該児童は毎日の配信を楽しみにしているようである。 ・学級の児童たちも、配信が当たり前の日常になっており、気軽にあいさつをしたり話しかけたりしている。 ・9月から、学校における教育活動のWeb配信を始めているが、保護者や当該児童は大変喜んでいる。何より、当該児童の心のエネルギーが上がってきており「学校」に少しずつ興味をもち始めている。 ・9月下旬の運動会には、開会式から閉会式までリモート参加することができたことは、本人にとって大きな自信につながったと思う。
	先生方の反応・感想等
	・担任と休み時間や放課後に行う1対1でのWeb会議では、主に会話を通してやりとりをしており、当該児童にとって楽しみの一つになっているようである。その時間は、顔も声もONにしてやりとりをしている。当該児童が思いっきり笑い、楽しんでいる姿を見て保護者だけでなく、担任としても大変嬉しい。 ・複数の診断名がつき、外へ出ることもできない当該児童に対しては、大変有効な手段であり、大きな成果へつながっているように思う。
4	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	・児童用タブレットのアラームを設定しておき、朝起きられるようにする。 ・時間割等の予定を伝える。 ・アプリを利用し、ビデオ通話で当該児童の状況・様子を確認する。
	課題・問題点・苦労している点等
	・タブレットを利用してコンタクトを試みても、児童側のタブレットで自由に受け入れが選択できるので、学校側からコミュニケーションをとれないこともある。 ・ビデオ通話アプリで表情を見ようとしても、映してもらえないときがある。

5	児童生徒の反応や保護者の反応，成果等 ・保護者は，教員から直接児童へコンタクトをとってもらえるので，ありがたいと思っており，学校とのつながりがあることで安心している。
	先生方の反応・感想等 ・児童本人と直接コミュニケーションをとることができ，当該児童の言いたいことや気持ちが教員に伝わりやすい。 ・時間や手間をかけず，スピード感をもって次の対応につなぐことができる。 ・心身の状態の把握などにつながるものとして効果があると感じている。
	ＩＣＴを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容 ○リモートでの授業参加 ・保健室登校児に対して授業支援システムを使用して授業を受ける。 ・児童側のカメラと音声はＯＦＦにして，支援者がチャットで当該児童と関わる。「見えるか」「聞こえるか（聞き取れたか）」「発問に対する自分の考え」など。 ・「授業を受ける」だけでなく，クラスの雰囲気も味わえるようにする。 ・授業支援システムを使った学習のまとめ。 ・「教室で授業を受けてもついていける，分かる」素地を培うことを目的とする。 ○Ｗｅｂドリル教材を使用した学習 ・購入した市販ドリル類だけでなく，ＩＣＴを利用して基礎，基本の定着を図る。 ・支援者や担任は，取り組んだ課題のデータを基に，今後の対応を検討する。
	課題・問題点・苦労している点等 ・リモートによる授業支援を行える職員の確保 ・「このままリモートによる学習活動でよい」と思われられないような手立て。（あくまで教室へ戻るための一時的な支援であることをどう理解してもらうか） ・クラスの他の子どもたちの理解を，どう得るか。 ・ＩＣＴ機器やソフト（アプリ）の効果的な活用についての教材研究の時間確保。（スキルの高い教職員の負担が増える傾向がある）
	児童生徒の反応や保護者の反応，成果等 ・学校を休むことがなくなった。（保健室登校） ・徐々に力と自信をつけて，教室で他の児童と一緒に活動する時間が増えた。 ・保健室登校児のために考えたものを，他の児童の学習活動にも生かすことで，児童の学習意欲や能力が高まりつつある。
	先生方の反応・感想等 ・対応の状況を共通理解することで，他の学年の指導にも生かせた。 ・支援者として関わった教職員のＩＣＴスキルが高まった。 ・ＩＣＴ関連の研修を積極的に取り入れるきっかけとなった。（年間計画以上に） ・他の教職員が作成したデータ等を共有しアレンジすることで，学習準備の時間短縮にもつながっている。

6	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	○心のサポート的支援として コミュニケーションツールのアンケート機能を使った毎日の健康調査により、毎日の健康調査とともに、不安なことや心配なことを記入させ、送信させることで、養護教諭へダイレクトに相談活動ができるようにしている。 ○学びの支援として Webドリル教材を使った学習を行わせたり、授業支援システムにより、学級における学習の状況をリアルタイムで確認させたりしている。 ○今後の展望として コミュニケーションツールの様々な機能を教員が活用し、オンラインによる面接指導や学習状況の確認、課題の配布・回収ができるようになれば、良いと考えている。
	課題・問題点・苦労している点等
	・家庭との連携が重要である。 ・家庭での通信環境の整備。 ・端末の不具合に、即応できない。
	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	毎朝の健康調査が送信されており、家庭でも早起きをして健康的な生活をしている様子である。協力的な家庭においては、親子でドリル学習に取り組んでいるようである。
7	先生方の反応・感想等
	本人からの毎日の健康調査等の送信により、電話連絡や家庭訪問を行うことなく生徒の状況を把握することができる。
	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	・別室登校をしている生徒に対して、Web会議システムを使って教室とつなぎ、授業を受けることができるようにしている。 ・不登校の生徒に対しても、本人の希望があれば家庭と教室をWeb会議システムでつないで授業を受けることができるようにしている。
	課題・問題点・苦労している点等
	・生徒の反応が見えないため、授業の展開が難しい。 ・Web会議システムを活用するには教室にもタブレットを置く必要があるため、不登校の生徒の意思確認が必要である。（他の生徒の目が気になる。）
7	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	・普段、顔を合わせていない級友と一緒に授業を受けることで、教室の雰囲気を楽しみながら、楽しそうに授業を受ける様子が見られた。また、級友が不登校の生徒がいる部屋を訪れたり、数回であるが、実際に授業に入り、級友と一緒に授業を受けたりすることができた。
	先生方の反応・感想等
	・教室に入るのはハードルが高いと感じている生徒にとっては、リモートによる学習活動への参加は教室に近づくための第1歩として有効ではないか。 ・級友に顔を見られたくないので、画像と音声をオフにして参加している。そのため、生徒の反応がわかりづらく、授業が一方通行になってしまう。

8	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	・適応指導教室にて、文化祭の生中継や、学級旗紹介・パフォーマンスのビデオを、Web会議システムで生徒が見られるようにした。 ・生徒が、家庭や適応指導教室で、授業等に参加できるように、保護者の協力を得て、学習者用タブレット端末の使い方や家庭での接続方法等を説明、実施した。 ・特別支援学級の2年数学の授業を公開し、家庭や適応指導教室で、リモートで授業を受けられるようにしている。(週3時間) ・数学の授業の動画を、いつでも生徒が見て学習できるようにしている。
	課題・問題点・苦労している点等
	・リモートの授業で使用する学習プリントを、事前に家庭に届ける必要がある。 ・授業時間の変更や、授業内容の変更等を、事前に伝える方法を工夫する。 ・リモートで授業を受けている生徒の理解度がよくわからず、授業の展開に悩む。 ・全てのリモート授業に参加できないので、人によって学習の進度が違ってくる。
	児童生徒の反応や保護者の反応、成果等
	・文化祭の様子を、事後に見られたことは、大変好評であった。 ・リモート授業の最初は、緊張しながらも参加できていたが、だんだん授業に参加しなくなった生徒がいる。
9	先生方の反応・感想等
	・リモートの授業が数学以外の教科でもできるようにしたい。
	ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容
	* 不登校の生徒はいないが、病気のためしばらく休んでいる生徒に対する支援を記述する。 【HR活動等】 ・朝の会及び帰りの会にオンラインで参加。対象生徒の背と同じくらいの高さを調整したスタンドにタブレット端末を装着し、いつもの立ち位置に設置する工夫をしている。始業前からクラスに設置し、級友とコミュニケーションを図る時間を設定している。教室移動時は、級友が声をかけながらスタンドを運んでくれている。 ・清掃の時間は、班活動で行っている。リーダーの生徒が、清掃場所にスタンドを運び、家庭で実施できる清掃(粘着カーペットクリーナーなど)を実施したあと、リーダーに終了の報告をする活動を行っている。 【各教科等】 ・音楽、美術、体育は、集団での授業にオンラインで参加。T2の教員が、個別に支援しながら、音楽に合わせたダンスや制作活動、ストレッチなどの活動に取り組んでいる。 ・国語、数学、職業、家庭科などは、集団と個別での授業を実施。事前にプリントや実習の教材を家庭に届けておき、オンラインで指導・支援しながら授業を進めている。
	課題・問題点・苦労している点等
	・校舎外での活動においては、オンラインでの参加が難しい授業もあるので、ポケットWi-Fiなど校外の活動でも、端末がオンラインでつながる状況をつくる工夫が必要。

児童生徒の反応や保護者の反応，成果等
・遠隔教育においては，体調も安定して参加することができている。 ・保護者は，学校に通えない状況にありながら，家庭で遠隔教育を受けることができることに大変喜んでいる。 ・その日，その時間の体調に合わせて，授業への参加，不参加を選択できるので，安定した状況で授業を進められる。
先生方の反応・感想等
・家庭で活動しながらもタブレットをとおして，リアルタイムで生徒の様子を観察できるので，状況に合わせて指導を進めることができる。 ・個別の対応においては，落ち着いた状況で活動に取り組むことができ，生徒に寄り添いながら指導を進めることができる。 ・病気で休みが続く生徒に対する支援において，オンライン学習は欠かせない手段であり，今後も工夫しながら続け，授業のノウハウを構築していきたい。